

令和8年度 入善中学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習意欲の向上 【知】
重点課題	主体的に学習に取り組む態度を育む
現 状	本校の生徒は学校行事や生徒会活動においては、主体的に取り組むことができ ており、一人一人が役割意識をもって積極的に活動している姿が見られる。 昨年度は、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善や教室整備やよ り効果的な指導を行い、すべての生徒にとって「分かりやすい」と感じられる授 業を展開できるように努めた。 今年度は「自分の個性を発揮する」「多様な他者と共同しながらよりよい学校 を創造する生徒集団を育成する」ための授業改善を行う。特に、道徳科の授業を 充実させることで、全ての教育活動における基盤をつくり、生徒の資質・能 力を総合的に育成できるようにしたい。
具体目標 数値指標	・授業や家庭学習を通して「分かる」「できる」ことが増え、学習内容が定着して いると感じる生徒の割合が80%以上になることを目指す。
方 策	・各教科での研修の時間を確保し、「生徒の問題（課題）意識や解決する力を高め る」ための教師の授業力の向上に努める。 ・授業中に学習課題の設定、「まとめ」や「振り返り」を的確に行うことで、学 習内容の理解に努め、成長した自分が感じられるようにする。 ・学習ノートや振り返りカード等に教師からの評価も入れることで、正しく自己 評価できるようにする。 ・個に応じた週課題を提示することで、積極的に家庭学習に取り組めるようにす る。また、家庭学習の仕方や学習計画の立て方、家庭における時間の使い方につ いて学級指導を行う。 ・定期考査前に生徒会で予想問題を作成し全校で実施することで、生徒の学習意 欲を高める。 ・道徳科の授業を充実させるために、各学年で研修や互見授業を積極的に実施す る。 ・各教科で生徒同士が関わり合う場面を設定し、多面的・多角的に考える力が高 まるように努める。
外部評価者	学校評議員、保護者
公開の方法	学校評議員会、 学校だより、ホームページ等

重点項目	豊かな心の育成 【徳】
重点課題	教師と生徒、生徒同士の信頼関係を構築し、共感的な人間関係を育むために、自治活動に協働的に取り組むことができる。
現 状	例年、本校では、教師と生徒、生徒同士の信頼関係をより高め、学級で各々が安心して発言し、他の発言が受容される集団を構築したいと考え、学級・学年の諸活動、生徒会を中心とした学校行事に取り組んでいる。しかし、総合質問紙調査i-checkの結果を見ると、生徒の自己肯定感に関する項目の値が低いことが課題とされる。また生徒間に共感的な人間関係が十分に構築されているとは言えないのが現状である。以上のことから、学級・学年の諸活動、生徒会活動を含めた学校行事を通して、生徒一人一人が様々な活動に協働的に取り組み、その頑張りを互いに認め励ますことで、共感的な人間関係を醸成し生徒が自己有用感をもてるよう支援したい。そして、生徒の自己肯定感の高まりに繋げたい。
具体目標 数値指標	・総合質問紙調査i-checkの結果から、自己肯定感に関する項目の肯定的な回答の割合が全国標準スコア+3.0（53.0）以上になることを目指す。
方 策	・生徒のよさや可能性を積極的に見付け、生徒理解に努め、生徒の様子をよく観察して教員間でどんな些細なことでも共有する。 ・学級討議や学年委員会、学校行事等の振り返りシートを生かした集団づくりを推進する。（各学年によるプロジェクト等の実施） ・生徒リーダーを育成し、生徒の手による自主的、実践的な生徒会活動を推進する。 ・授業や学級活動で自分の意見を伝えたり、人の意見を聞いたりすることで、多くの気づきや学びを得られるような手立てを工夫する。 ・グループエンカウンター、SST等を通して、よりよい人間関係づくりに努める。 ・道徳の授業を通して、様々な意見や価値観に気付けるような手立てを工夫する。 ・学年でi-checkの結果を共有・分析し、より深い生徒理解と好ましい学級作りのために研修する機会を設定する。 ・総合質問紙調査i-checkの結果（5月／11月実施）の数値を分析し、顕著な数値変動がある生徒には、不登校等の問題の未然防止のために、面談の機会を設ける。
外部評価者	学校評議員、保護者
公開の方法	学校評議員会、学校だより、ホームページ等